ISSN　2187-6177

日本語音声コミュニケーション　12

Japanese Speech Communication 12

2024. 3

日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

製作　ひつじ書房

目 次

発刊のことば

特集　音声と動画

和文

招待論文
「文」を多面的・多層的に捉える
―話し言葉の文法研究にとっての「文」の可能性―
大江元貴 1

論文
ゲームコミュニケーションにおける日中感謝表現の量的比較
―対面性と対人関係の影響を中心に―
肖蕾 20

論文
アクセントとイントネーションの同時実現性と日本語学習者による韻律実現の特徴
―ロシア人学習者による平叙文と名詞句―
木元めぐみ 41

論文
習熟度と発話能力
―L1 韓国語・英語・日本語話者の発話の流暢さの比較―
井畑萌 65

研究ノート
「まあ」と「内心のわだかまり」
―柳澤・馮氏らの所論に対する反論―
大工原勇人 83

著者紹介
雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）
編集後記

発刊のことば

日本語音声コミュニケーション学会は、2022 年 4 月に体制を新たにし、これまでの活動を引き継ぎつつ、規模を拡大しました。主な活動は年 2 回の宵山研と年数回のコラボ企画の実施、そして電子学会誌を発行し、学会メンバーにお届けすることです。

こうして、学会誌『日本語音声コミュニケーション』第 12 号を無事お届けできるのも、ひとえに皆様のご協力あってのことです。ありがとうございます。

『日本語音声コミュニケーション』第 11 号からは、10 号までとは趣を変え、「特集」を設けました。今号のテーマは「音声と動画」です。1 本の招待論文・3 本の論文・1 本の研究ノートが掲載されています。いずれも音声・映像データ満載のものとなっています。

どうぞ、お楽しみください！

著者紹介

大江元貴（おおえ もとき）
青山学院大学准教授
主な研究分野：日本語学
主な著書・論文：
・「「嘲り文」の構造と名詞独立語文体系における位置」『日本語の研究』18（1）（日本語学会、2022）
・「日本語の左方転位構文はいつ，どのように使われるか？」『社会言語科学』23（1）（共著、社会言語科学会、2020）

Motoki OE
Associate Professor, Aoyama Gakuin University, Japan
Main topic of research: Japanese linguistics
Main publications:
・The Structure of a "Mockery Sentence" and its Position in the System of Nominal Free-Standing Word Sentences. In *Studies in the Japanese language,* 18(1) (The Society for Japanese Linguistics, 2022).
・When and How is Left-Dislocation Used in Japanese? In *The Japanese Journal of Language in Society*, 23(1) (co-author, The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences, 2020).

肖蕾（しょうらい）
金沢大学人間社会環境研究科博士後期課程
主な研究分野：社会言語学、語用論

Lei XIAO
Doctoral student at Human and Socio-Environmental Studies, Kanazawa University, Japan.
Main topics of research: Sociolinguistics, Japanese language pedagogy.

木元めぐみ（きもとめぐみ）
神戸大学国際文化学研究科学術研究員
主な研究分野：音声学、日本語教育、第二言語習得
メールアドレス：mkimoto_08@godzilla.kobe-u.ac.jp
Megumi KIMOTO, Ph.D.
Postdoctoral Researcher at Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University, Japan.
Main Topics of research: Phonetics, Japanese language teaching, Second language acquisition.
E-mail address: mkimoto_08@godzilla.kobe-u.ac.jp

井畑萌（いばたもえ）
南山大学大学院人間文化研究科言語科学専攻博士後期課程
主な研究分野：第二言語習得、日本語教育
主要著書・論文：
・『流暢性と非流暢性』（分担執筆、ひつじ書房、2024）
・「英語母語話者の日本語発話における非流暢性現象と発話プランニングー「あの（—）「ええと」＋後続ポーズに焦点を置いて」（『南山言語科学』15、2020）
・「話すタスクと書くタスクにおける L2 日本語の中間言語変異性－日本語学習者コーパス I-JAS を用いた分析－」（『日语教育与日本学研究—大学日语教育研究国际研讨会论文集』、2021）
Moe IBATA
Graduate Program in Linguistic Science , Graduate School of Humanities, Nanzan University
Main topics of research: Second language acquisition, Japanese as a second language
Main publication:
・*Ryūchōsei to Hiryūchōsei* (Fluency and Disfluency), Hituzi Syobo, 2024.
・Eigo bogowasya no nihongo hatsuwa ni okeru hiryūchōsei genshō to hatsuwa puranningu - “ano (—)” “eeto” + kōzoku pōzu ni shōten o oite (Disfluency phenomena and speech planning by L2 Japanese speakers: Focus on “anoo” or “eeto” + subsequent silent pauses), *Nanzan Gengo*

Kagaku (Nanzan Studies in Language Science), *15*, 2020.

・Hanasu tasuku to kaku tasuku ni okeru L2 Nihongo no chūkan gengo henisei - Nihongo gakushūsha kōpasu I-JAS o mochiita bunseki -(Interlanguage variability of L2 Japanese in speaking and writing tasks: An analysis using the corpus of learners of Japanese, I-JAS), *dà xué rì yǔ jiào yù yán jiū guó jì yán tǎo huì lùn wén jí (Japanese Language Education and Japanese Studies)*, 2021.

大工原勇人（だいくはらはやと）

同志社大学日本語・日本文化教育センター准教授

主な研究分野：日本語学、日本語教育学

主要業績：

・「指示詞系フィラー「あの（ー）」・「その（ー）」の用法」『日本語教育 138 号』（2008）

・「副詞「なんか」の意味と韻律」『日本語文法』9 巻 1 号（2009）

Hayato DAIKUHARA, Ph.D

Associate Professor, Center for Japanese Language and Culture, Doshisha University, Japan

Main topics of research: Japanese linguistics, Japanese language education

Main publication:

・"The Use of Japanese Filler *ano* and *sono*." *NIHONGO KYOIKU* No.138, 2008.

・"The Use of the Japanese Adverb NANKA." *NIHONGO BUMPO* Vol.9, No.1, 2009.

雑誌の案内（投稿の方法、連絡先）

『日本語音声コミュニケーション』（Japanese Speech Communication）は、日本語音声コミュニケーション学会の会員であれば、どなたでも投稿できます。（但し、会員以外からの投稿も編集委員会の判断で認めることがあります。）

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。
https://sites.google.com/view/nihononsei/membership

「投稿要領」と「編集委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。
https://sites.google.com/view/nihononsei/publication

編集委員会のメンバーについては、下記の web ページをご参照下さい。
https://sites.google.com/view/nihononsei/history

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。
松田真希子（まつだ　まきこ）（代表理事）
japanesespeechcommunication[at]gmail.com（[at] の部分を @ に変えてご送信下さい。）
〒 192-0364　東京都八王子市南大沢 1-1
東京都立大学　松田真希子研究室内

編集後記

私は、1982 年 4 月から東京、新宿にある日本語学校に勤め始めました。できたばかりの学校で、学生は 30 名ほどだったと思います。そのほとんどが台湾からの学生でした。当時の友人で、台湾からの留学生が言いました、「馬場さん、日本の日本語教育は、台湾人の日本語教育なんだよ」。

ところが、1989 年に熊本の大学に就職すると、留学生は、中国人がほとんどで、台湾人はごくわずかでした。それが、あるとき、ベトナム人となり、今、勤めている日本語学校では、学生 60 名のうち、50 名がネパールから来ています。

1982 年から勤めた学校は、半年ごとにコースが始まり、学生が、毎年、倍々にふえていて、新しい先生が採用されました。その頃は、日本語教育の経験のまったくない人がほとんどでした。

日本語教育能力検定試験が始まったのは、1986 年だそうです。私が 1989 年に熊本で採用されたのは、日本語教師養成課程開設のためでした。そして、現在、日本語教師は国家資格として整備されつつあります。

日本語教育の世界は、ととのえられ、質が向上していっているのでしょうか。

日本語やその音声、言語の運用の仕方、教育方法などについての研究は、いつの世でも歩みを止めるわけにはいきません。

みな様からのご投稿をお待ちしています。

馬場良二（編集委員会委員長）

日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

日本語音声コミュニケーション 12

Japanese Speech Communication 12

インタラクティブ PDF 版

発行　2024 年 3 月 29 日　初版 1 刷
著者　日本語音声コミュニケーション学会
https://sites.google.com/view/nihononsei/
発行・製作　株式会社 ひつじ書房
〒 112-0011 東京都文京区千石 2-1-2　大和ビル 2F
Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917
郵便振替 00120-8-142852
toiawase@hituzi.co.jp　https://www.hituzi.co.jp/

ISSN　2187-6177